

芝生の特性

区分		特長	成長型	注意点
暖地型芝生	日本芝			
	ノシバ	環境適応力があり、乾燥に強く、踏圧にも強く丈夫。きめは粗い。	匍匐茎と根茎 主に栄養繁殖、一部種子繁殖 成長は遅い	冬季休眠期は擦切れに対する注意が必要。回復力が全くなくターフの強度も低下するため、過度の利用で春までに裸地する可能性も。
	コウライシバ	多く使われる。葉も細く、適度な刈り込みにより美しい芝生になる。踏圧にも強い。	匍匐茎 栄養繁殖 成長は遅い	
バミューダグラス	生育適温が高く、寒さや日陰に弱い。ティフトンはラグビー場などによく使われる。成長が極めて速い。	匍匐茎 栄養繁殖でしか育成できない品種がある。成長は極めて速い。		
寒地型芝生	西洋芝			
	ベントグラス類	寒さに強く、低刈りにも耐え繊細で上質の芝生をつくる。根が浅いので乾燥には特に弱い。管理に手間がかかる。	匍匐茎 種子繁殖が主流、栄養繁殖も	冬季に寒風にさらされると、夏季の生育適温を超える高温や乾燥に、茎葉の伸びが抑制され、損傷からの回復ができなくなる。
	ブルーグラス類	色、きめ、密度は良好で寒冷地でよく育つ。初期成育が遅い。踏圧には強い。	根茎 栄養繁殖と種子繁殖 種子の発芽と初期の生育が遅い。	
	フェスク類	環境適応力があり、寒地型では耐暑性、乾燥には強い。きめは粗い。	株の分結 種子繁殖	
ライグラス類	成長が早く、寿命が短い。早期緑化や夏草のオーバーシーディングに使用。極端な天候に弱い。	株の分結 種子繁殖 発芽が速く、苗の成長が活発		

区分		耐寒性	耐暑性	耐旱性	耐湿性	耐踏圧性	擦切抵抗性	回復力	定着速度	作業集約度	刈高 mm	チツ g/m ² /年	サッチの生成	適応土壌
暖地型芝生	日本芝													
	ノシバ	強	極強	極強	強	強	極強	強	遅い	中	12.5~25	7.5~15	中~多	弱酸性
	コウライシバ	中	極強	極強	強	強	極強	強	遅い	中	12.5~25	7.5~16	中~多	弱酸性
寒地型芝生	西洋芝													
	バミューダグラス	弱	極強	極強	強	極強	極強	極強	速い	中~高	13~50	20~40	多	
	ベントグラス	極強	中	弱	やや弱	中	やや弱	極強	中	高	3.2~13	10~30	多	酸性 やや酸性
	ケンターッキーブルーグラス	強	中	中	やや弱	強	強	強	遅い	低~高	19~64	10~30	中~多	中性 やや酸性
	トールフェスク	弱	強	強	強	中	強	弱	中	やや低	38以上	少	小	
ペレニアルライグラス	弱	やや弱	やや弱	強	極強	強	弱	速い	中	12.5~50	10~30	小	中性 やや酸性	